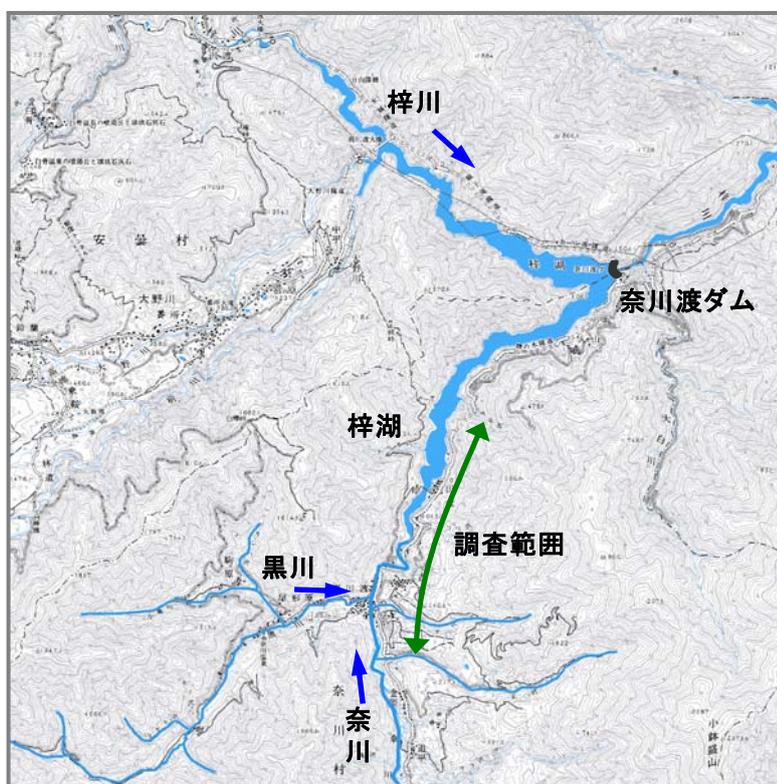


奈川に生息するサクラマス^①の生態調査を実施しました

梓川右支川奈川に生息するサクラマスは、夏から秋にかけて奈川渡ダム(梓湖)から奈川へ遡上し、産卵する習性を持っています。

奈川が流れる松本市奈川地区においては、「サクラマスの里」として PR していくことが地域で検討されるなど、観光資源としても期待されています。また、平成 22 年度には、黒川渡流路工にサクラマスの遡上を目的とした魚道を設置しました。

そこで、松本砂防事務所では、今後の砂防施設整備の基礎資料とするため、不明な点が多いサクラマスの生態調査を実施しました。



調査位置図



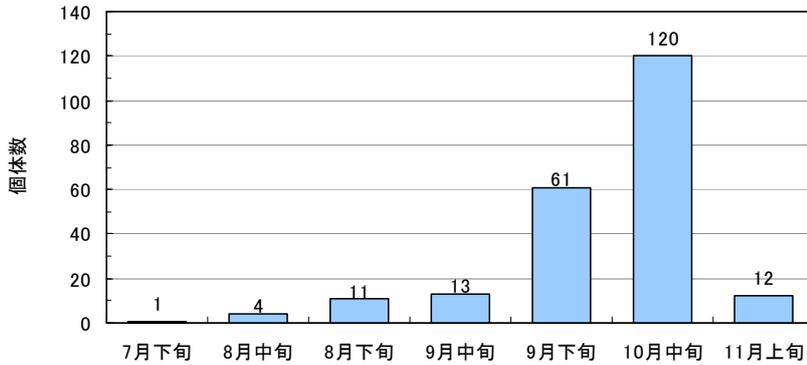
奈川



魚道(黒川渡流路工)

【サクラマスの遡上数】

- ・ 奈川(金原砂防堰堤～梓湖流入部)、黒川下流、宮沢下流において、120 個体のサクラマスを確認しました。
- ・ サクラマスの遡上数は、9 月下旬に増加し、10 月中旬がピークとなりました。



サクラマスの確認個体数(平成 22 年度調査)



【サクラマスの遡上のようす】

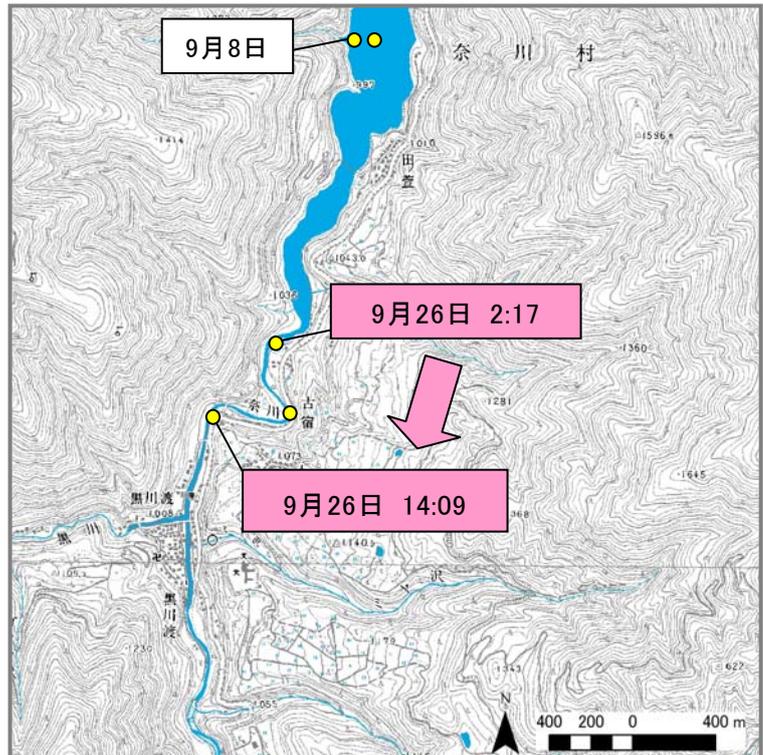
- ・ 計 14 個体のサクラマスに発信器を取り付け、発信器からの電波を受信しながらサクラマスの位置を特定するテレメトリー調査を実施しました。
- ・ テレメトリー調査の結果、約 1km を 12 時間程度で移動するようすをとらえました。(全長 49cm のオス)
- ・ サクラマスは、雨による増水にあわせて移動しました。また、日中のほか、夜間の移動も確認しました。



自動受信システム



発信器を取り付けたサクラマス



サクラマスの移動状況

【魚道の設置と遡上状況】

- ・ 黒川渡流路工は、構造物の落差が 1m 以上あったことから、サクラマスの上流が難しい状況でした。このため、サクラマスの遡上を目的とした魚道を設置しました。
- ・ 今年度は、魚道より上流側で 40 個体のサクラマスを確認しました(昨年度は 3 個体)。
- ・ サクラマスの産卵床も計 13 箇所を確認しました。
→サクラマスの産卵環境が広がり、奈川のサクラマスが増えることが期待されます。



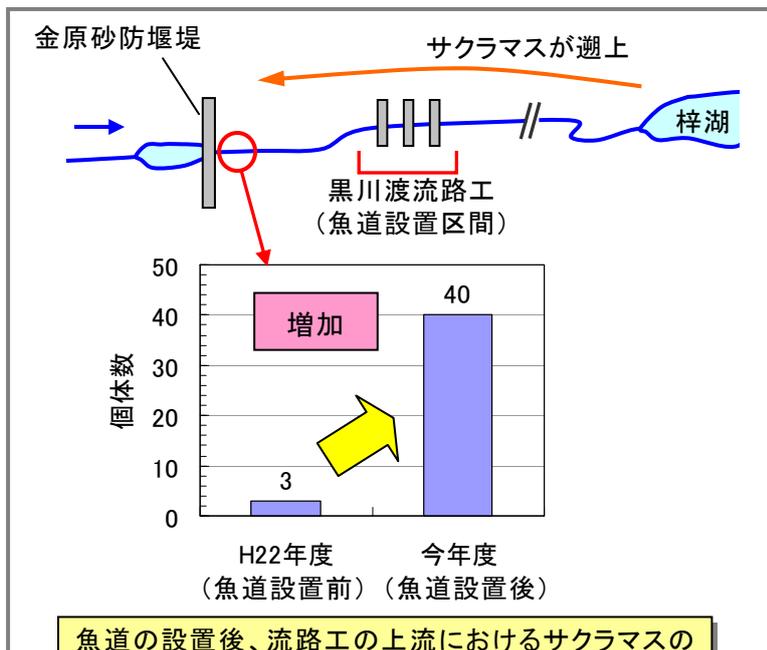
魚道の設置前



魚道の設置後(平成 22 年 12 月完成)



黒川渡流路工は、昭和 60 年に竣工した床固工 3 基、帯工 8 基を有する全長 600m の流路工です。魚道は、この既設流路工に新たに設置しました。



魚道の設置後、流路工の上流におけるサクラマスの確認数が増加しました。



魚道内を遡上するサクラマス



産卵床を掘るサクラマス
(金原砂防堰堤下流)



サクラマスの卵



魚道では、ウグイの遡上も確認しました。